

具体的な施策の展開（基本方針・施策） 更新版

基本方針（案）

基本目標を実現するため、本市の生涯学習の課題を踏まえ、本計画では大きく2つの基本方針を位置付けます。

1つは、これまで取り組んできた生涯学習施策を基軸に、一人ひとりの主体的な学びや学び合いを支える基盤を整備する「だれもが学び合える環境づくり」です。

もう1つは、市民による活動などを持続的に支えるとともに、学びをいかし、伝え広げ、新たなつながりやコミュニティ形成を促す「学びを伝え広げるつながりづくり」です。

基本方針1	だれもが学び合える環境づくり ～一人ひとりの学びを支え、学び合いが広がる基盤づくり～
目指す姿（案） すべての市民が多様な学びの機会に気軽にアクセスでき、誰もが自分に合った学びに出会え、生涯学習センターをはじめとして、学びの相談や参加がしやすい環境が整い、主体的な学び合いが広がっている。	
● 学びに参加しやすいきっかけづくりを進めるとともに、多様な生き方・世代・背景・状況に応じて学びに参加できる多様な機会を提供します。 ● 時代に応じた学習環境の整備や、生涯学習センターを中心とする包括的な学びの拠点づくりと連携強化を進め、誰もが学びやすい環境づくりを進めます。 ● 学びに関する情報が広く届き、活用される仕組みを充実させるとともに、学びの相談体制を整備することで、学びとの出会いと主体的な学び合いを促進します。	
基本方針2	学びを伝え広げるつながりづくり ～学びを通した持続可能なネットワークづくり～
目指す姿（案） 生涯学習センターや地域の拠点施設を中心とした連携の下で、多様な主体が学び合い・支え合いながらつながりを広げ、学びの成果が地域にいかされ、個人と地域が共に成長するネットワークが形成されている。	
● 府中市の学びをつなぐ担い手の発掘・育成や活動支援を通じて、人と人が結びつく持続的なネットワークの形成を図ります。 ● 一人ひとりが学んだ成果を適切にいかすための仕組みづくりとともに、学びの成果を広げる機会の充実を進め、「学び返し」による地域の課題解決や市民による多様な学びの場の形成などを促進します。 ● 地域の団体・学校や大学、企業などの多様な主体の連携を強化し、拠点を通じて市全体での学びのネットワークを広げていくことで、より良いまちづくりなど、新たな価値の創出につなげます。	

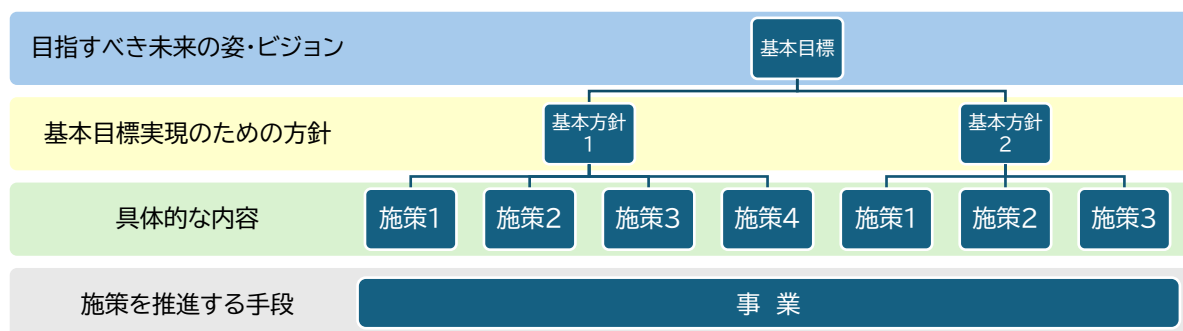
計画の構成（案）

本計画の構成は以下のとおりとします。

基本目標	基本方針	施策
学びでつながり 共に成長するまち 府中 気軽に楽しく 多様な学びのコミュニティ	基本方針1 だれもが学び合える環境づくり 	1 学びのきっかけづくり
		2 一人ひとりの背景や時代に対応した学びの機会づくり
		3 だれもが学びやすい環境づくり
		4 学びの情報共有の仕組みづくり
	基本方針2 学びを伝え広げるつながりづくり 	1 学びを支え・つなげる人づくり
		2 学びの成果を広げる仕組みづくり
		3 府中市学びのネットワークづくり

第4次府中市生涯学習推進計画の構成について

- 「基本目標」は、目指すべき未来の姿・ビジョンを示すものです。
- 「基本方針」は、「基本目標」を実現するための基本的な考え方・方針を示すものです。
- 「施策」は、「基本方針」に沿って展開される具体的な内容を示すものです。
- 「事業」は、「施策」を推進する手段を示すものです。



だれもが学び合える環境づくり

～一人ひとりの学びを支え学び合いが広がる基盤づくり～

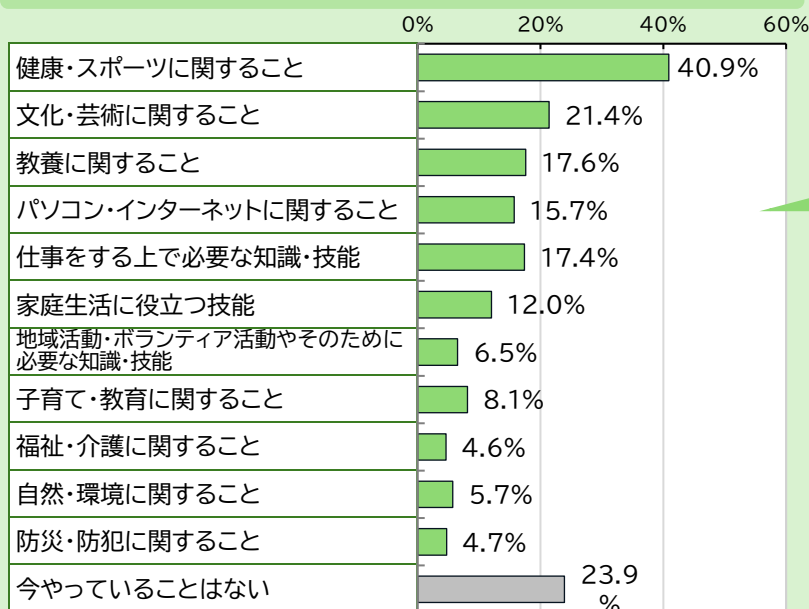
■現況と課題

課 題

- 現在学んでいない方にとっては、様々なアプローチから学びと出会うきっかけが必要です。
- 学習手段として、対面型とオンライン型どちらもニーズが高くなっています。
- 働く世代や子育て世代、若者世代など、各世代のニーズに応じた講座・プログラムの充実が求められており、各地域の文化センターへの要望にも表れています。
- 届きにくい生涯学習情報を多くの世代に届けるために多様な媒体での発信が重要です。
- 新しい生涯学習センターに対しては、交流スペースや多様な講座やセミナーの開催が求められています。

◎現在行っている学びについて

意識調査：現在行っている生涯学習の内容



現在学んでいる方のうち4割が「健康・スポーツに関すること」に取り組んでおり、全世代で高い割合となっています。

意識調査：現在行っている生涯学習が「ない」と答えた人の理由

- 1位 忙しくて時間が取れないため
- 2位 経済的に余裕がないため
- 3位 特に必要と考えていないため

参加に至らない背景として、「忙しさ」や「経済的余裕」のほか「時間帯」「情報不足」などもあります。

◎今後求められている生涯学習の方法とサービスについて

意識調査：これから利用してみたい生涯学習の方法

- 1位 スマホ・パソコンやインターネットなどの利用
- 2位 図書館、郷土の森博物館、美術館や府中の森芸術劇場の利用
- 3位 生涯学習センターや文化センターの講座など

スマホ・パソコンなどオンライン中心の学習が多い一方、図書館や文化施設、生涯学習センターや文化センターの講座など対面での学びのニーズも高まっています。

意識調査：生涯学習のために充実してほしいサービス

- 1位 各世代のニーズに合った多様な講座やプログラム
- 2位 インターネットを活用したオンライン学習
- 3位 学習活動のための施設・設備の拡充

「インターネットを活用したオンライン学習」は特に10～20代でニーズが高まっています。

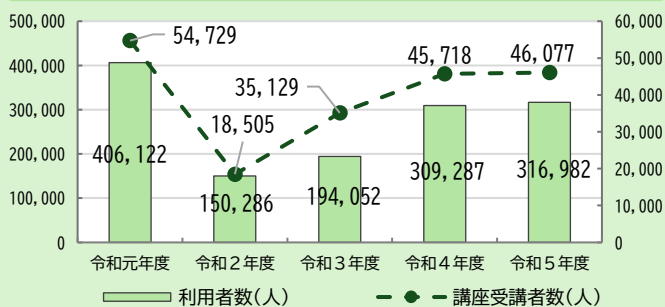
◎生涯学習センターの利用状況と新施設に求めるもの

新施設では、カフェや休憩スペース等の交流スペースが求められています。

意識調査：新生涯学習センターに求める機能

- 1位 カフェや休憩スペースの併設
- 2位 多様な講座やセミナーの開催
- 3位 高齢者でも利用しやすい環境

生涯学習センター利用者数・講座受講者数（令和元年度～令和5年度）



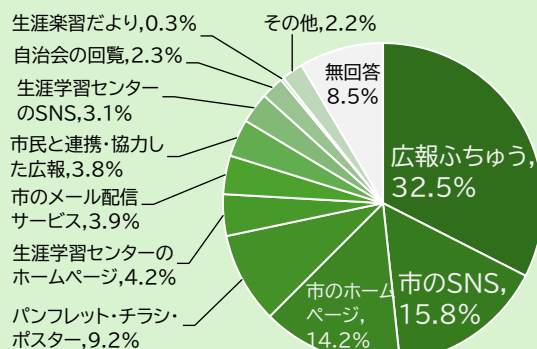
◎生涯学習の情報入手手段について

30代以下では、「市のSNS」での情報発信を求める割合が高くなっています。

意識調査：利用している生涯学習の情報入手手段

- 1位 広報ふちゅう
- 2位 得る手段が分からない・得ていない
- 3位 パンフレット・チラシ・ポスター

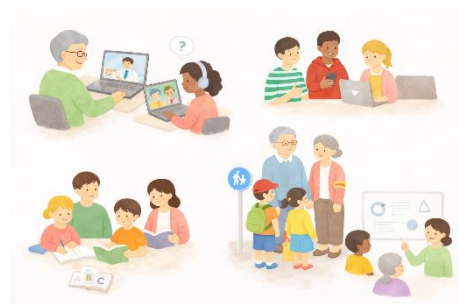
意識調査：生涯学習の情報入手手段で力を入れるべきもの



■位置づく施策

基本方針1 だれもが学び合える環境づくり

- ▶施策1 学びのきっかけづくり
- ▶施策2 一人ひとりの背景や時代に対応した学びの機会づくり
- ▶施策3 だれもが学びやすい環境づくり
- ▶施策4 学びの情報共有の仕組みづくり



施策1 学びのきっかけづくり

【 施策の内容 】

●市民が学びを通して豊かな人生を送れるよう、誰もが参加しやすい環境を整えるとともに、参加しやすい仕組みづくり、参加のきっかけづくりに取り組みます。

○学びへの意欲を持ちながら学習活動に参加できていない市民に対して、参加を阻害する様々な要因を取り除き、魅力的な学習環境や講座等の提供により参加を促していきます。既存の講座・学級などにおいても、ハイブリッド型の学習の機会を推進します。

○学びに対する無関心層に対しては、庁内の連携や市民協働のもと、あらゆる機会を通して、学びとの出会いを広げていきます。

【 施策指標 】

指標名	指標の考え方	現況値 (令和7年度)	将来値 (令和16年度)

指標レベルで
目標

イメージ

【 主な事業（仮） 】

事業名	事業内容	計画期間中の 取組内容
市民スポーツ教室	スポーツ推進委員並びに府中市体育協会が中心になり、スポーツ実施率の向上を目的に幅広い年齢の市民を対象としたスポーツ教室を実施する。	ジュニアからシニアにわたるまで、市民がそれぞれのライフステージに合わせて活動できるスポーツ教室を開催することでスポーツ機会の拡充を図る。
郷土の森博物館展示会事業	長期休暇、梅まつりなどの時期に展示会を実施し、日頃、見ることのできない展示物に触れることにより、学習の幅を広げる。	年2回の特別展をはじめとした企画展や、季節に応じた展示会事業等を実施し、地域の歴史や文化、自然への理解を深める学びの機会を提供する。
みんなのスポーツ day	体育の日にちなみ、体育館を無料開放し、市民誰もがスポーツに親しめるイベントを実施する。	ラリーテニスやボッチャなどのほか、地域の特色をいかした取組を行う。
地区公民館講座	市内 11 か所の文化センター内にある公民館で親子料理教室・工作教室等の家庭教育学級、料理・工作・健康教室等の趣味実用講座のほかに、親子人形劇や映画鑑賞会を実施する。	家庭教育支援の一環として親子のふれあいの場を提供していく。また、市民のニーズに合わせた講座を実施することで学びのきっかけづくり、健康の増進などにつなげる。地区公民館講座 60 回以上を目標として、地域住民の交流の場を提供する。
ふちゅう教養講座（仮名称・旧公民館講座）	幅広い市民を対象に、子育て中の保護者向けの家庭教育に関する講座や親子参加型など、今まで市で行ってきた講座以外にも、様々なニーズを捉えて、時代に即したテーマの教養講座を実施する。	毎年、時代に即したテーマの講座を開催する。
生涯学習センター講座	多様な学びの機会を提供し、市の生涯学習振興につながる、市民の学習ニーズに合った、様々な講座を実施する。	各分野の専門家のほか、生涯学習センターで活動している市民団体や生涯学習サポーターを講師として講座を開催し、市民協働を図る。

施策2 一人ひとりの背景や時代に対応した学びの機会づくり

【 施策の内容 】

●市民一人ひとりの学びへの意欲が、自分らしい未来につながるよう、主体的な学びを支える、時代に即した生涯学習を促進します。

○デジタル技術の活用により地理的・時間的制約を解消し、誰もがいつでも学べる生涯学習環境を目指します。(生涯学習DX)

○既存の講座・学級などにおいても、ハイブリット型の学習の機会を推進します。

○キャリア向上やスキルアップを目指す市民のため、様々なニーズ・段階に応じた講座等の充実など市民のリスキリングを支援します。

○障がいの有無や国籍、年齢、性別にかかわらず、より多くの市民が参加できるよう、多様な背景や状況に配慮した包摂的な学習の機会づくりに努めます。

【 施策指標 】

指標名	指標の考え方	現況値 (令和7年度)	将来値 (令和16年度)

指標レベルで
目標

イメージ

【 主な事業（仮） 】

事業名	事業内容	計画期間中の 取組内容
ふちゅうカレッジ出前講座	市民のリクエストに応じて市職員が講師となり、市政の様々なテーマについて講義する。	市民の多様なリクエストに応じられるよう講座を開催し、市民の教養の向上に努めていく。実施件数 40 件、参加者 1300 人を目標とする。
障害者成人教室（あすなろ学級）	18 歳以上の知的障害者を対象に月 2 回程度開催し、障害者の学習、スポーツの機会を確保する。また、この事業に参加するボランティアの育成、活用を図る。	軽スポーツや工作等の活動を通して障害者の自立を促すとともに、社会に開かれた運営を目指す。また、ボランティアが企画する事業も取り入れ、市民協働で実施する。年 15 回以上の開催を目標とする。
一般健康教室	生活習慣病、健康増進、健康に関する正しい知識の普及を目的に、講話、相談、試食などを実施する。	生活習慣病、健康増進、健康に関する正しい知識の普及を推進し、個人の取組に留まらず地域全体でソーシャルキャピタルの醸成による健康づくりを目指す。
けやき寿学園	60 歳以上を対象に、政治、経済、文化、芸術など多様なジャンルから、市民のニーズを捉えたプログラムを実施する。	対象者のニーズに合わせて、気軽に参加できる無料の講座を開催する。
オンラインを活用した講座	生涯学習センター講座や公民館講座におけるオンラインで受講・参加できるメニューを開設する（ハイブリッド型講座を含む。）。	オンライン学習のニーズを捉えながら、講座内容の拡充と新たな受講者層の開拓を目指す。
心身に障害のある児童生徒の地域活動事業	市内在住の市立小中学校特別支援教室・都立特別支援学校の在籍者を対象に、週休日に体験学習活動の機会を提供する。	障害のある青少年に多様な体験学習の機会を提供するとともに、活動を支える指導者やボランティアの育成を図る。

施策3 だれもが学びやすい環境づくり

【 施策の内容 】

●生涯学習センター、文化センター、図書館など生涯学習関連施設の整備充実を図り、持続可能な学びの拠点づくりに取り組みます。

○生涯学習センターは、建替えと併せて拠点機能の強化を図ります。また、活動の場の確保、利用者との意見交換など、移転・複合化に伴う学習活動への影響を最小限に抑えるための計画的な対応を行います。

○多世代が利用できる学びを通じた居場所づくりにより、若者の学習活動の支援充実や多世代交流を促進します。

○市内どこからでも気軽に講座や活動の場にアクセスできるよう、創意工夫のもと学びの機会充実に努めます。また、DX環境の整備や、利用を促進するために交通利便性（アクセス性）の向上を図ります。

【 施策指標 】

指標名	指標の考え方	現況値 (令和7年度)	将来値 (令和16年度)

指標レベルで
目標

イメージ

【 主な事業（仮） 】

事業名	事業内容	計画期間中の 取組内容
放課後子ども教室	市内在住の全ての小学生に対し、放課後や学校の長期休業期間中に学校施設を活用し、安全で安心な居場所を提供する。	市立小学校 22 校で実施する。
児童館の充実	乳幼児を育児中の保護者が利用しやすいように、キッズスペースを設置し、一層の活用を図る。	児童館の利用活性化を図るため、比較的午前中の利用が多い未就学児の利便性を考えるとともに、多くの小学生参加が見込まれるサークルの活動については、子供たちのニーズに合った企画・実施を心掛けていく。
国際交流サロン運営事業	外国人住民を対象に、日本語学習や文化交流活動の機会を提供する。	外国人住民の日本語学習等をサポートする市民ボランティアを育成する。
生涯学習センタースポーツ施設	体育室の一般開放では、誰でも利用しやすい場を提供する。その他水泳教室などを開催し、技術面でもサポートする。	卓球、バドミントンなどが気軽にできる場や多種多様なトレーニング器具を提供する。水泳技術と健康増進運動を図るため、障害者専用コース、ワンポイントレッスンなどを実施する。
生涯学習センター学習施設	市民・利用者に生涯学習センターの学習施設を良好な状態で提供する。	生涯学習センター学習施設の維持と改善を図りながら各施設で運営する。
生涯学習センター移転新設	生涯学習センターの学習機能の移転と新施設の建設を進める。乳幼児と保護者が遊びながら学ぶことのできるキッズスペースを設け、若者や高齢者も集うことのできる多世代の居場所づくり、地域間・世代間の交流を促進する機能を強化する。また、DXに対応した施設とする。	生涯学習センターの令和 11 年度の府中駅北第 2 庁舎への移転、令和 14 年度の中央文化センター等複合施設の新設及び移転を進める。

施策4 学びの情報共有の仕組みづくり

【 施策の内容 】

●学びの情報をより多くの市民に確実に情報を届けるため、分かりやすく、探しやすい、必要な情報を的確に届ける情報発信の仕組みの構築を行います。

○活動団体や講座の情報を体系的に検索が可能なポータルサイトの整備や、SNS などデジタルでの情報発信機能の強化に努めます。

○多様な層に情報が届くよう、広報ふちゅうへの生涯学習情報の掲載や、市内各施設でのチラシ・ポスター掲示等の紙媒体を活用した情報発信を継続的に実施します。

○市民一人ひとりが求める学びに出会えるよう、コンシェルジュによる相談機能を整備し、講座や活動の情報案内や、伴走支援を実施します。

○外国籍の方や府中市に転入直後の人、学びに関心が低い人など、多様な背景や状況を持った市民に届ける視点をもって情報発信に取り組みます。

【 施策指標 】

指標名	指標の考え方	現況値 (令和7年度)	将来値 (令和16年度)

指標レベルで
目標

イメージ

【 主な事業（仮） 】

事業名	事業内容	計画期間中の 取組内容
生涯学習情報誌の発行	生涯学習ボランティアの編集で、市民の学習活動状況や生涯学習センターでのイベントを取り上げ「生涯学習だより」を発行する。	生涯学習ボランティア編集による「生涯学習だより」について、指定管理との協働により発行する。年4回の発行を目指す。
インターネットによる情報発信	市のSNSなどで積極的に生涯学習情報の発信を行い、市民が必要な情報を入手できるようサービスの向上を図る。	市のSNSでの情報発信を充実させ、市の生涯学習に関する情報を取得している市民の割合の向上を目指す。
広報媒体を活用した生涯学習のPR	各主管課の依頼に基づいて生涯学習関連事業を広報ふちゅうなどを通じて、市民に知らせる。	各主管課の依頼に基づいて広報ふちゅうなどに生涯学習関連事業の内容を掲載する。
生涯学習相談	生涯学習に関する様々な情報の提供、相談、紹介、支援・調整に関する体制を整備する。	生涯学習コンシェルジュを始め、社会教育士などの社会教育人材の活用を図った体制の整備を目指す。
生涯学習ポータルサイトの運営	生涯学習に関わる情報を一元的に管理して発信を行い、市民に対する情報提供と活動交流の促進を図る。	ポータルサイトの開設と内容の充実を目指す。

学びを伝え広げるつながりづくり

～学びを通した持続可能なネットワークづくり～

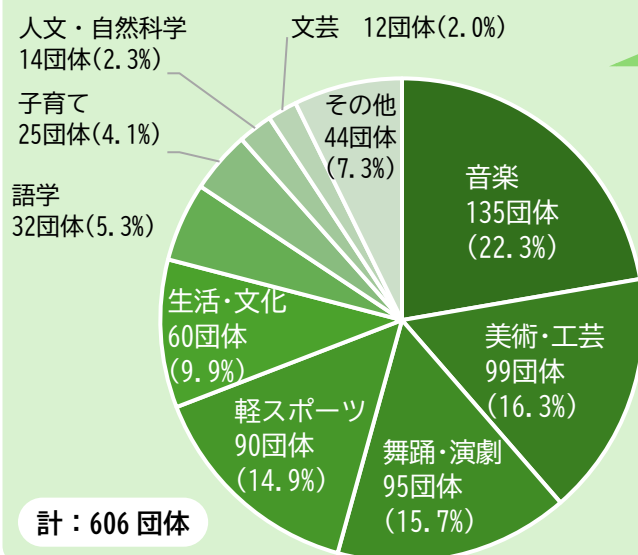
■現況と課題

課 題

- 多分野の活動が行われていますが、地域や団体活動へは特定の世代の参加が高く、会員が減少している現状もみられます。
- 学びの成果や経験をいかしたい人の意欲を活動につなげるためには、「活動参加のきっかけ」や「コーディネーター機能の充実」など、地域や活動へとつなぐ支援の仕組みが求められています。
- 学びたい人と成果をいかしたい人をつなぐマッチング機能の強化や、気軽に相談・交流できる場の整備など、学びと実践を循環させる仕組みづくりが求められています。
- 学びを支える生涯学習サポーターや生涯学習ファシリテーターの役割・認知度は低い状況です。
- 学びと実践の循環を広げるため、多様な主体の連携など市全体で学びを支える仕組みが必要です。

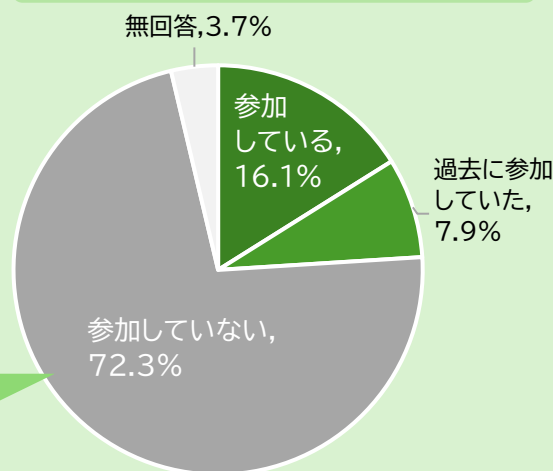
◎市民による多様な学びの場について

分野別の社会教育関係団体数(令和7年度)



音楽、美術・工芸、舞踊・演劇の団体で全体の半数以上を占めています。

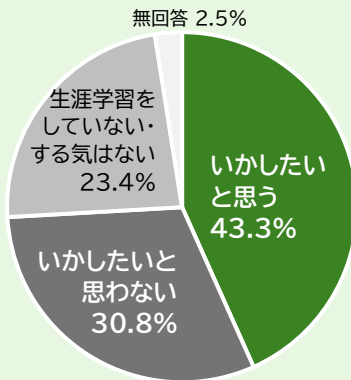
意識調査：グループで学習や活動をする組織への参加経験(令和7年度)



現在グループで学習・活動をする組織に参加している方は1割強となっています。

◎学びをいかすことについて

意識調査：生涯学習で身に付けた知識・経験を自分以外のためにいかしたいか



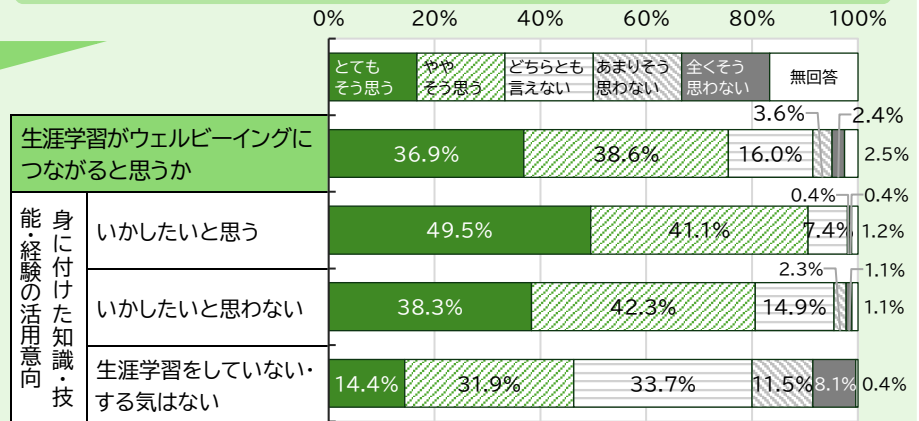
「いかしたいと思う」人の中では、資格等を活用した職業を通じての社会貢献や、仲間内・サークルでの教え合い、子育て支援活動などにいかす意向が高くなっています。

意識調査：生涯学習を通じて身に付けた知識・技能や経験を自分以外（地域・社会）のためにいかすために必要なこと

- 1位 活動への参加につながるきっかけづくり
- 2位 知識・技能や経験をいかす人と活動の場を結ぶ人（コーディネーター）の充実
- 3位 地域活動・ボランティアの情報提供の充実

身に付けた知識・経験を自分以外のためにいかしたいと思う人はウェルビーイングを実感している割合が高い傾向にあります。

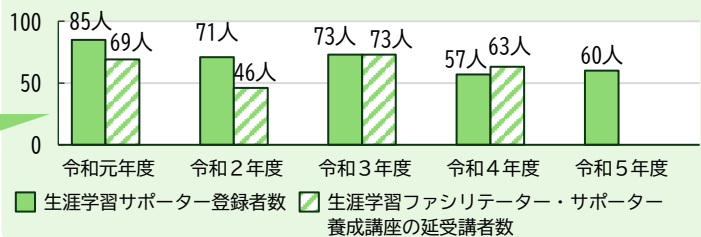
意識調査：生涯学習がウェルビーイングにつながると思うか（生涯学習によるウェルビーイングの実感と学びの活用意向の関係）



◎人材について

意識調査では、生涯学習サポーター・ファシリテーター養成講座の認知度は低い結果が出ており、登録や講座の受講に関しても年々減少傾向にあります。

生涯学習サポーター登録者数と生涯学習ファシリテーター・サポーター養成講座の延受講者数の推移（令和元年度～令和5年度）



■位置付く施策

基本方針2 学びを伝え広げるつながりづくり

- ▶施策1 学びを支え・つなげる人づくり
- ▶施策2 学びの成果を広げる仕組みづくり
- ▶施策3 府中市学びのネットワークづくり



施策1 学びを支え・つなげる人づくり

【 施策の内容 】

●学びを支える担い手の発掘・育成や活動支援を進めるとともに、人や活動をつなぐ仕組みの充実を図ります。「学ぶ人」と「学びを支える人」の双方を支えながら、持続的な担い手づくりに取り組みます。

○現在活動している団体への支援に加え、高齢化・会員減少などの課題を抱える活動団体やボランティアが継続的に活動できるよう支援を進めます。

○「生涯学習コンシェルジュ（前計画での生涯学習ファシリテーター・サポーター）」など、学びをつなぐ役割を担う人材の育成に努めます。

○様々な分野でのボランティアの養成講座を実施するなど、学びを支える担い手の発掘・育成に努めます。

【 施策指標 】

指標名	指標の考え方	現況値 (令和7年度)	将来値 (令和16年度)

指標レベルで
目標

イメージ

【 主な事業（仮） 】

事業名	事業内容	計画期間中の 取組内容
生涯学習コンシェルジュの養成（旧ファシリテーターの養成）	市民の学習活動に対し、情報提供や相談に応じるなど、支援を行う生涯学習コンシェルジュを養成する。	生涯学習コンシェルジュの認定基準やカリキュラムを作成して養成講座を実施し、修了者を輩出する。
生涯学習サポーターの登録（旧サポーター養成講座）	文化・芸術・教育・レクリエーション活動等について専門的知識・技能を持つ市民を指導者として、あらかじめ登録し、市民の求めに応じ、その指導者を紹介する。	市民の間に広く制度の周知を進め、生涯学習の推進に役立つ優れた人材の確保に努める。
生涯学習ボランティアの養成講座	生涯学習を支える活動をしたいと考える市民のために、生涯学習ボランティア養成講座を開催する。	生涯学習ボランティア養成講座を開催し、ボランティアの養成に努める。年1回以上の開催を目標とする。
ジュニアリーダー講習会	小学4年生～高校3年生を対象に、リーダーシップ・協調性・主体性の養成、将来の青少年育成を担う人材育成を目的としたジュニアリーダー講習会を実施する。	他者や異年齢層との交流方法、自分で考え行動する力等を身に付けることを目的とした、集団活動、野外活動、社会学習等のプログラムを通年で実施する。
コムスポ協力者の育成	これまであまりスポーツになじみのなかった市民に、スポーツの楽しさを伝え、継続的な活動ができるように指導できる人材（府中コムスポの協力者※）を育成する。	コムスポ協力者の資質向上のため、研修会を年1回以上実施する。
おはなしボランティア養成講座	図書館や地域で絵本の読み聞かせを行うボランティアの資質向上を図るため、講座を実施する。	図書館のおはなしボランティアを対象にした「ステップアップ講座」を継続して実施し、ボランティアの人材育成と能力向上につなげる。また、市民対象の「読み聞かせ講習会」を毎年実施し、絵本の読み聞かせやストーリーテリングなどを地域で行える人材を育成する。
美術館ボランティアの育成	美術館ボランティアとの協働を推進する。NPOと美術館との協働により、研修会や教育普及事業など様々な事業活動の機会を提供し、美術館ボランティアを育成する。	アートスタジオ・ワークショップの補助、公開制作のガイド、市民文化の日などイベントのお手伝い、パブリックアート（彫刻）のメンテナンスなどを実施する。ボランティア活動のきっかけづくりとして、ボランティア説明会を併せて実施する。
市民活動団体の活動支援	市民活動センターに登録している団体の活動機会の提供に努めるとともに、地域との交流を図る。	市民・団体が交流できる場を提供し、市民同士のネットワークの構築を目指す。各種イベントなどで団体が活動する機会を提供し、団体活動の活性化を目指す。
社会教育（学習）関係団体への支援	教育委員会に登録した生涯学習に関わる活動を行う団体に、施設使用料の減額や広報ふちゅうへの記事の掲載などの支援を行う。	多様な学びのコミュニティの形成につながるよう、適宜、登録制度の見直しを図りながら、新規団体の登録を推進し、団体数の維持を目指す。

施策2 学びの成果を広げる仕組みづくり

【 施策の内容 】

●身に付けた知識・技能や経験（学びの成果）を地域・社会へいかしたい人と、新たに学びたい人がつながり、日常的な交流や実践を通じて「学び返し」が広がる、多様な学びの場づくりを進めます。

○学びの成果をいかしたい人と学びたい人をつなげるため、相談支援や講師登録の活用などつなぐ仕組みを充実させ、市民企画講座など実践の機会を提供します。

○生涯学習フェスティバルなど、学びの成果を広く発表・共有する機会を充実させ、新たな学びや活動、つながりへと発展するきっかけをつくります。

【 施策指標 】

指標名	指標の考え方	現況値 (令和7年度)	将来値 (令和16年度)

指標レベルで
目標

イメージ

【 主な事業（仮） 】

事業名	事業内容	計画期間中の 取組内容
市民企画講座	講座の企画を提案・実施する市民、又は市民の団体を募集し、生涯学習センターで開催する。	知識・経験・企画意欲のある市民又は市民団体の企画を積極的に採用し、講座の充実を図るとともに、「学び返し」の実践の場として提供する。年間講座数6～7講座程度を目標とする。
生涯学習フェスティバル	市民の生涯学習に対する理解を深め、生涯学習活動全体の推進を図る。引き続き、自主的な活動を推進するため、市民による実行委員会形式で開催する。	市、実行委員及び指定管理者の三者による協働事業として実施。来場者数12,000人を目標とする。
民俗芸能伝承普及事業 （旧府中囃子伝承普及事業）	市の伝統芸能である府中囃子を永く後世に残すため、備品の貸与や援助などの支援をする。 市の郷土芸能である武蔵国府太鼓の普及と伝承のため、市民講習会を実施する。	府中囃子の伝承普及を府中囃子保存会への委託により継続して実施し、平成29年度に作成した府中囃子（2流派）のCDを活用するなど、市内外へ広く普及に努めていく。 武蔵国府太鼓講習会を武蔵国府太鼓連盟への委託により継続して実施し、平成30年度に作成した武蔵国府太鼓連盟のDVDを活用することにより、伝承と市内外への普及に努めていく。
生涯学習コンシェルジュの活用	市民の学習活動に対し、情報提供や相談に応じるなど、支援を行う生涯学習コンシェルジュを養成し、その活用を進める。	生涯学習コンシェルジュ養成講座修了者の登録制度を整備し、生涯学習センター等で生涯学習相談等の活動ができるよう、環境を確立する。
生涯学習サポーターの活用	生涯学習サポーターを市民の求めに応じて紹介するとともに、多様な学習活動の場面で活用を推進する。	生涯学習サポーター制度の市民への周知を図り、市民の利用を促進するとともに、生涯学習センター講座や公民館講座などの講師に活用する。
生涯学習ボランティアの活用	講座の企画・運営や講師として、生涯学習ボランティアを活用する。	指定管理者と生涯学習ボランティアの協働により、「学び返し」と市民協働を目指し、年間20講座程度の開催を目標とする。
府中市市民提案型男女共同参画推進講座事業	市民団体等の企画運営による講座を通じて、地域における男女共同参画の意識づくりと担い手育成を図る。	応募団体の中から選考を行い、選考を通過した2団体に事業を委託する。委託先団体が主体となり、地域における男女共同参画の意識づくりや女性人権の啓発等をテーマとした多様な講座を企画・実施する。
元気いっぱいサポート事業	地域ぐるみでの健康づくりの取組を行い、ソーシャルキャピタルの醸成を推進するため、元気いっぱいサポーター及び元気いっぱいサポーターリーダーが地域での健康づくりを推進する。	元気いっぱいサポーターに向けてサポーター通信を送付、市民向けの元気いっぱいサポーターリーダー養成講座及び元気いっぱいサポーターリーダー向けのリーダー会を実施、自主グループの活動を支援する。

施策3 府中市学びのネットワークづくり

【 施策の内容 】

●地域、団体、学校、大学、企業との協働による学習・活動支援や、生涯学習に関連する施設間の連携を通じて、生涯学習を共通の視点とした市民の活躍を支える体制として「学びのネットワークづくり」を推進します。

○市内企業や、市と協定を結んでいる大学・学校等との連携を強化し、公開講座や教養セミナーなど、専門的な学びを含む多様な学習機会の充実を図ります。

○市の主催で、市内の活動団体の企画による講座を開催します。また、複数の団体による講座、イベント等の実施のため必要に応じて紹介等を行い団体間の交流を促進します。

○市内各地域の学校支援ボランティアとの連携により、世代を超えて学び合える身近な地域での学びの場づくりを進めます。

○生涯学習センターを中心に、生涯学習関連施設間の連携を強化し、学びの情報や学びの機会を共有するとともに、人や活動をつなぐことで、市全体で学びを支えるネットワークづくりを進めます。

【 施策指標 】

指標名	指標の考え方	現況値 (令和7年度)	将来値 (令和16年度)

指標レベルで
目標

イメージ

【 主な事業（仮） 】

事業名	事業内容	計画期間中の 取組内容
市内生涯学習関係施設連絡会議	市内の生涯学習関連施設のイベント情報や市民ニーズの動向など学習活動に関する情報交換をする。	生涯学習関連の施設の担当者により、学習事業の情報交換などに加えて、全市的に取り組むべき企画について協議する。
大学との連携	東京農工大学及び東京外国語大学と連携し、教養セミナーなどを実施して、学習機会の場を提供する。	各大学との連携講座として実施する。各大学と年1回以上の連携講座の実施を目標とする。
学校支援ボランティア	地域社会が学校に対して支援していくボランティア活動を行う。	世代を超えたふれあい活動の実施、地域の伝統的な文化や技能の伝承、校庭の整備・花壇の世話などを実施する。